

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	コロロ杉並少年隊		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 20日	～	2025年 1月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2024年 12月 20日	～	2025年 1月 11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	コロロ・メソッドによる療育プログラムが基本になっており、それに基づいた研修を行っているので、スタッフ間で療育技術や療育理論の共通認識が高く、足並みがそろいやすいことです。それにより、お子さんの状態をより早く、より良い発達に導くことが出来ます。	全国の教室をZOOMで繋ぎ、コロロ発達療育センター全体で、定期的に子どもたちへの対応技術の研修、理論的な研修を行っています。また、対応に苦慮するお子さんがいた場合には、全体で知恵やアイデアを出し合い乗り越えるなど、チームで療育に当たるという意識で行っています。	コロロ・メソッドの療育方法を知っていただき、一人でも多くの理解者が増えることは、子どもたちの利益につながります。学校の先生、放課後等デイの支援員、相談支援員さんなど、お子さんを取り巻く支援者の皆様の見学はいつでもお受けしていきます。
2	集団適応力を育む「リズム」「集会」「歩行トレーニング」など、自閉症のお子さんに対する効果的なプログラムがあり、それをその日集まったお子さんに合わせて柔軟に組んで行うことが出来ます。	リズムで流す曲や集会教材などは季節感やトレンドを取り入れ、子どもたちを知らず知らずの内に楽しい雰囲気に取り込んでいきます。そのためには、スタッフの技術が必要ですので、活動を行いながら実地研修をしたり、終了後に意見交換をし、お互いを高めています。	自教室だけの活動だけでなく、大きな会場を借りて、関東にあるコロロ・メソッドを行う教室と合同で活動を行うことで、「いつでも・どこでも・誰とでも」落ち着いた行動が取れる力がつくように、活動の機会を増やしていきます。
3	教室の中だけでなく、ご家庭でも出来る療育技術をお伝えし、実践をしていただけるように、勉強の機会を月1回開催していることです。	コロロの教室だけ、特定のスタッフだけと出来るだけでなく、「いつでも、どこでも、だれとでも」行動が取れる力が、将来の社会参加に繋がります。そのために保護者の皆様に日頃の関わり方をお伝えする勉強会を開催しています。	送迎をされるお母さんだけでなく、お父さんやそのほかのご家族とも交流が持てる時間を設け、お子さんの対応がわかる理解者を増やしていく取り組みが必要と感じます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスがない点。	利用者さんのお住まいが広範囲にまたがっているため、送迎がしづらいことと、私たちは親御さんから直接様子をうかがいながらお預かりし、活動の様子をお伝えしながらお返すことが意義深いと思っています。ですが、お問い合わせの時点で送迎サービスを望まれる方も多く、送迎サービスがないという理由で当センターをお	交通公共機関でお越しいただく方、車で送迎される方がほとんどです。車に関しては教室周辺の駐車場の地図を作成し、止める場所でお困りにならないようにしています。
2	活動の内容を頻繁に映像でお送りするなどのシステムがない点。	LINEやInstagramを活用して、保護者に活動の様子を映像でお伝えするシステムはありません。画像処理に長けているスタッフがいないことも要因の一つです。	随時送ることはできませんが、活動写真を連絡帳に添付したり、今後は定期的なおたよりでお知らせするなど、子どもたちの成長を見ていただけるように一層工夫していきます。
3	開催イベントに関する周知の弱さ。	親御さん向けの無料勉強会や、本部主催のダイナミックリズムのようにご家族皆さんで参加できるイベントを開催しているのに、周知が足りず、知らずにいる方もいらっしゃいます。一度だけメールでご案内する、口頭でのご案内で終わってしまっていることは原因の一つと考えられます。	担当からメールで、イベントのご案内を一度だけでなく、リマインドすること、教室に掲示すること等、より情報が適宜入るよう、発信に努めます。